

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal pre-pregnancy body mass index and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

母体妊娠前BMIと胎児アシドーシスの関連

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Scientific Reports

年: 2021

DOI:

10.1038/s41598-020-79178-1

筆頭著者名: 村田 強志

所属UC名: 福島ユニットセンター

目的:

妊娠前のbody mass index (BMI、体格を示す指標)と胎児アシドーシスの関連について調べました。胎児アシドーシスは低酸素などにより児の血液が酸性に偏る状態であり、進行すると児の状態が悪化してしまいます。胎児アシドーシスの状態は、分娩直後の臍帯血を用いて評価しました。

方法:

妊娠前BMIにより5グループに分割し、グループ1 (BMI <18.5 kg/m²), グループ2 (18.5 to <20.0 kg/m²), グループ3 (20.0 to <23.0 kg/m²), グループ4 (23.0 to <25.0 kg/m²), グループ5 (≥25.0 kg/m²)としました。統計解析で、グループ3の妊婦と比較して、他のグループで胎児アシドーシスが起りやすいか調べました。

結果:

日本人の平均的なBMIであるグループ3と比較して、グループ5において胎児アシドーシスが起りやすいという結果が得られました。経膣分娩に限った場合でも、グループ3と比較してグループ5において胎児アシドーシスが起りやすい結果となりました。一方、帝王切開の場合、いずれのグループにおいても、グループ3と比較して胎児アシドーシスの起りやすさは変わりませんでした。

考察: (研究の限界を含める)

BMI 25kg/m²以上の妊婦ではBMIが20から23kg/m²未満の妊婦と比較して、経膣分娩では胎児アシドーシスが起りやすく、帝王切開では胎児アシドーシスの起りやすさは変わりませんでした。分娩方法によって妊娠前の母体BMIと胎児アシドーシスの関連に違いが生じる可能性があります。

結論:

妊娠前の体重管理は胎児アシドーシスのリスクを減らすために重要です。